

2012年4月5日

## 企業会計基準委員会と国際会計基準審議会の代表者による定期協議の開催

企業会計基準委員会  
国際会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と国際会計基準審議会（IASB）の代表者は、2012年4月2日に、東京で会合を開催いたしました。この会合は、ASBJとIASBが定期的に行っているもので、今回で15回目となりました。

今回の会合では、両者は以下の点について議論しました。

- IASB と米国財務会計基準審議会（FASB）との間のコンバージェンスプログラムの残りの項目の完了に向けた作業について
- IASB の将来のアジェンダに係る協議について（日本の関係者からの意見を含む）
- IFRS 財団の評議員会で現在検討されている、IFRS 解釈指針委員会の継続的な見直しについて
- ASBJ と IASB の今後の関係を含む、IASB と各国の会計基準設定主体との間のより緊密な協調関係のあり方について

ASBJ と IASB は、高品質でグローバルな会計基準の開発に寄与するため、継続的に緊密な連携を図ることを再確認しました。

西川郁生 ASBJ 委員長は次のように述べています。

「IASB が現在取り組んでいるアジェンダ協議や、今後さらに重要性を増すことが想定される IFRS 解釈指針委員会の見直しについて、意見交換ができたことは意義のあるものであった。高品質でグローバルな会計基準の開発に貢献するため、IASB のプロジェクト（アジェンダ協議のプロセスを含む）に積極的に関与していきたいと考えている。」

Hans Hoogervorst IASB 議長は次のように述べています。

「IASB 議長に就任してから9カ月の間で、5回目のアジア訪問となる。IASB と ASBJ は良い連携を図っており、日本の IFRS 導入に向け、より緊密な関係を築いていくことを期待している。」

なお、次回の会合は2012年下期にロンドンで開催する予定です。

## 企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、高品質でグローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

## 国際会計基準審議会（IASB）について

IASBは、2001年に設立され、独立した民間の非営利組織である国際財務報告基準（IFRS）財団内の基準設定機関である。IASBは、公益に資するよう、一般目的財務諸表において透明性があり比較可能な情報を提供する、1組の高品質でグローバルな会計基準を開発することを公約している。この目的を追求するため、IASBは、広範にわたる公開の協議を行っているほか、世界中の国際機関や各国機関と協力している。15名の常勤のメンバーは、10か国から選ばれ、幅広い職務上の経歴を有している。2012年中に16名の常勤のメンバーに拡大される。メンバーは、IFRS財団の評議員会から選任されるとともに、これに対して説明責任を負っており、専門的な能力と、国際的なビジネス及び市場に関する経験の多様性に関して、選択し得る最良の組み合わせを選択することが要求されている。彼らの作業において、評議員会は、公的機関のモニタリング・ボードに対して説明責任を負っている。